

当所育成スイートピー品種

‘湘南オリオン’に適した低温処理の方法

‘湘南オリオン’は生育が旺盛で、春先にも草勢の衰えが少なく高品質な切り花が収穫できますが、生育初期に栄養成長が旺盛になり過ぎ着蕾が遅れ、総収穫本数が減少することがあります。そこで発蕾が遅れないように‘湘南オリオン’に適した低温処理方法を検討しました。

‘湘南オリオン’は、種子を1℃で2週間低温処理をすることで収穫開始が早まり、総収穫本数が増加します。切り花長はやや短くなりますが、切り花品質に問題ではありません。吸水した種子と催芽した種子では、催芽した種子の方が低温処理の効果がやや大きくなります。低温処理時、播種作業時の種子の傷みを防ぐため、吸水した種子を1℃で2週間低温処理するのが適しています。

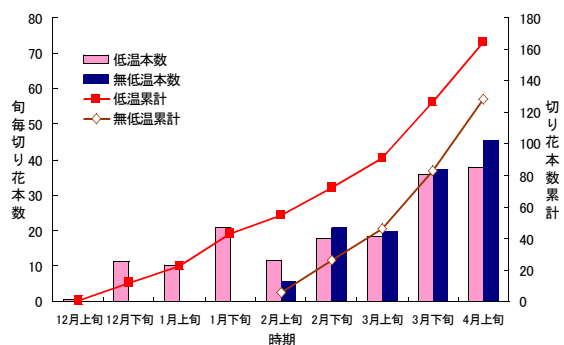
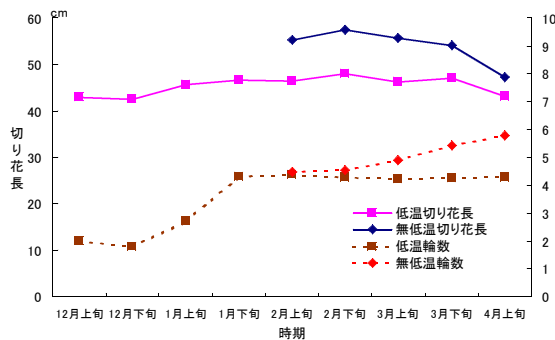
表1 催芽処理の有無および低温処理期間が‘湘南オリオン’の発蕾節位に及ぼす影響

低温処理 ^Z	発蕾節位	
	催芽有り ^Y	催芽無し ^X
3週間	11.2	12.5
2週間	16.2	19.5
1週間	26.2	26.1
-----	-----	-----
対照 ^W	25.8	

^Z 低温処理；1～2℃、^Y 吸水後20℃で催芽し、根または芽の伸長が確認できた後に低温処理、

^X 吸水後ただちに低温処理、

^W 吸水後20℃で催芽し、根または芽の伸長を確認した後に播種



※低温処理: 催芽種子を1℃2週間 (A) 切り花長および小花数の変化、(B) 10株あたり収穫本数

図1 低温処理が‘湘南オリオン’の切り花に及ぼす影響(2002年12～2003年4月)